



## 著者プロフィール

堀本裕樹（ほりもと・ゆうき）

昭和49年 和歌山県に生まれる  
平成5年 「國大俳句」（鎌田東二師範）に入会  
平成17年 「河」に入会。第26回角川春樹賞受賞  
平成18年 河新人賞受賞  
平成19年 河賞受賞。「河」編集長就任  
平成22年 「河」を退会  
平成23年 「梓」に入会、同人となる。第2回北斗賞受賞  
平成24年 『十七音の海俳句という詩にめぐり逢う』刊行  
現在 「いるか句会」「たんぼぼ句会」主宰  
日本学校俳句研究会顧問。俳人協会会員

〈句集『熊野曼荼羅』より転載〉〈2012年9月15日時点〉

## 『熊野曼荼羅』（自選15句）

堀本 裕樹

葉すれみな言の葉となる五月かな  
天牛を鳴かすや黄泉の誰のこゑ  
火焰十器よりつきつきと揚羽かな  
巡礼に蛇捕りの婆まじりをり  
打たれたる百足虫鳴くなり山百重  
向日葵の首立てとほす豪雨かな  
那智の滝われ一滴のしづくなり  
秋蟬の尿きらきると健次の忌  
物憑きて萩真つ白に乱れけり  
行き倒れし者蟋蟀に跳び乗らる  
火の鳥の羽や吹かるる樫紅葉  
紀の国の水澄みて杉澄みまさる  
銀漢を荒野のごとく見はるかす  
蝶凍てて空の起源の蒼さかな  
ふるさとこは血なり寒九の夜の水